

Ⅱ. 果樹・工芸作物・ハウス栽培

稲作以外の作物に関わる作物について、この項にまとめた。

1 1. 果樹関係

果樹関係の事故では、脚立等からの転落などもあるが、脚立等の関係は、別項の「脚立・はしご」の項でまとめて紹介する。

ここでは、高所作業車（リフト車）と背負い式肥料散布器に関わる事例のみ紹介する。

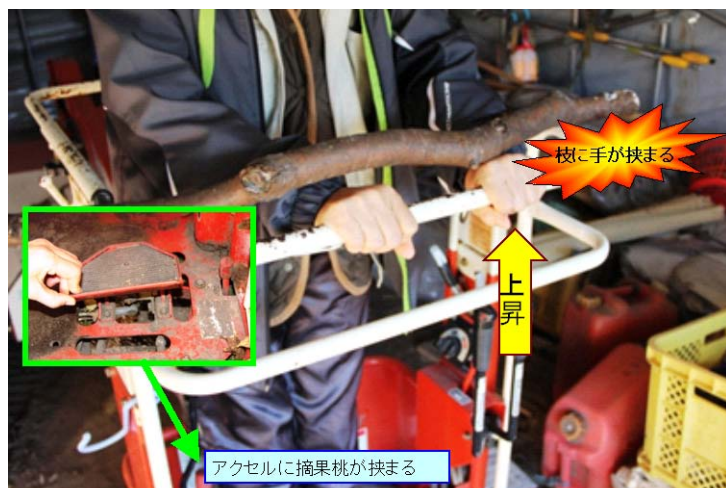
①高所作業車の乗って桃の摘果作業中、作業台のパイプと枝に手を挟まれた

（平成23年 6月 106時頃、桃畑、男性・79歳）

朝8時頃から4年前に購入した高所作業車で桃の摘果作業を開始した。10時頃、たまたま作業機を上下するアクセル部分に摘果した桃が挟まり、勝手に上昇しはじめた。地面から約3mのところ、作業台のパイプに掴まっていた手が桃の枝に挟まった。こういう状態に慣れていなかったこともあるが、みるとアクセル部分にある摘果桃に気づいた。足で蹴飛ばして除去しようとして、慌てて両手を抜いたところ、手の甲の皮がむけてしまった。作業機は5mぐらいの高さまでは上がる。2台あるが、事故を起こした作業機の方が不安定であった。

自分で軽トラックを運転して家に帰り、11時頃、奥さんの車で近くの診療所に行った。内科医だったので、総合病院の外科を紹介され、奥さんの車で病院へ行った。それほど時間は経っていなかったが、「もう少し早

ければ手術もできたがこの状態では難しい」と言われ、水道水で水洗いし、消毒してもらった。入院はせず、帰った。その後毎日通院した。水洗いをし包帯をしてもらった。仕事が忙しいので、ばい菌が入らないようにビニールで手の甲を被い、テープを貼って作業した。今まで化膿をしたことはない。薬は出なかった。



摘果した桃がアクセルにはまり、勝手にリフトが上昇、枝に手が挟まる

* 事故原因

高所作業車の作業台は、縦 113 c m、横 63 c m、奥行き 58 c m。半袖作業、靴はいつも運動靴（ヒモなし）であった。急に作業車が上昇し、何が起こったのか分からず、焦ってしまい、慌てて挟まった手を抜いて手の皮がむけた。

機械的には、摘果したものがアクセル部分に入り今回のような事故もあることを想定して、挟まらないように構造の改善が必要。

なお、年齢的な限界を考え、今年からリンゴをやめた、水田 50a は他人に貸した。

②背負い式肥料散布器で散布作業中、バランスを崩し転倒、右腕骨折

（平成24年 4月 午後4時頃、プルーン畑、男性・76歳）

プルーンの畑に化成肥料散布を背負い式肥料散布器で午後 3 時 30 分に開始。1 袋 20 k g の肥料を散布し、肥料が半分ぐらいになると、重心が下になり、バランスを崩しやすくなる。たまたまそこにあった段ボールが邪魔になったので、足で蹴飛ばそうとしてさらに不安定になり、尻もちをついた。そのとき右手を地面に強く着き、右手を痛めた。（午後 4 時 30 分頃）。天候は晴れ、服装はヤッケ、長靴、野球帽、手甲。散布器は 5 年前に購入した。

右手の甲がみるみる腫れ上がってきた。奥さんの運転で病院に搬送（午後 4 時 55 分に病院に到着）。レントゲン写真を撮り、骨折と判明。ギブスを巻いて帰宅し、また農作業をした。翌日、再度病院を訪れたとき、ギブスの下が泥で汚れていたため、医者に「しばらく農作業をしては駄目だと言っておいたのに」と叱られた。

このままでは 4 週間以上もかかると言われ、手術を受けることにした。右橈骨茎状突起骨折、3 日間入院。しばらく安静とのことだったが、農作業が忙しく、そうはしていられなかった。治療は 75 日間かかった。



背負い式肥料散布器



左手橈骨部の傷跡

* 事故原因

20 k g という肥料は、お年寄りにはもともと重い。また、散布器の袋が不安定。肥料を入れ、肥料が少なくなってくると、左右に振られやすい。固定できるような工夫ができるといい。また、重心を上げるような構造の袋にするとか、逆台形などもいいのではないか。